

## ガラパゴス化



最近、電器産業やコンピューターゲーム産業で、日本がガラパゴス化しているといわれている。生物の世界でいうガラパゴス諸島における現象のように、技術やサービス等が日本市場で独自の進化を遂げて世界標準から掛け離れてしまう現象である。

出典 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AC%E3%83%A9%E3%83%91%E3%82%B4%E3%82%B9%E5%8C%96>

地理的、歴史的、文化的にみて日本が、「ガラパゴス」なのは今に始まった話ではないし、電器産業やコンピューターゲーム産業に限った話でもない。日本人にとって当たり前でも世界では当たり前でないものはたくさん存在する。

「世界に冠たる保険制度」をもつ日本の医療もそのひとつである。国民皆保険、低い租税・保険料負担、フリーアクセス、保険適用の広さ等世界的に稀有な制度であり、戦後の世界的に稀有な日本の高度成長を支えてきたのである。

生物の世界の進化のメカニズムは完全に解明されているわけでないが、現在では、自然選択説が有力である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%AA%E7%84%B6%E9%81%B8%E6%8A%9E%E8%AA%AC>

生存率に差をもたらす自然環境の力を選択圧というが、医療界も様々な「選択圧」にさらされて来た。日本経済の成長率、日本人の年齢構成、日本人のメンタリティー、行政府の方針等、医学とは直接関係がないものの影響を多分に受けて医療は「進化」し続けている。最近では、経済のマイナス成長、少子高齢化という中長期的に続くであろう「選択圧」に加えて、小泉改革という大変動が日本の医療に大きな影響を与えている。

ガラパゴスは諸島であり、チャールズ・ダーウィンは生物が島ごとに独自の変化をみせていることから、「進化論」を思いついたのであるが、医療のガラパゴス諸島においても「島ごと」の独自の進化がみられる。「医科島」では、世界標準に比べて低い単価を高い稼働率と保険医療費の「自然増」で補ってきたが、骨太の方針によって「自然増」が難しくなり、臨床研修制度の改革と相まっ



て「医療崩壊」と呼ばれる現象が起きている。

「歯科島」では「医科島」にもまして特有の進化がみられる。世界標準に比べて格段に低い単価を「自費」と高い稼働率で補ってきた。しかし、この「自費」という「歯科島」特有の環境のため保険医療費の「自然増」はもともとなく、さらに歯科医師の急増が高い稼働率を難しくしてきている。「保険」と「自費」という世界的に稀有なダブルスタンダードが問題の解決を困難にしているのであるが、外部と隔絶された「歯科島」の生物は、このことに気が付かない。歯科技工士という絶滅危惧種もいるが、なんら対策はとられていない。



「医科島」も「歯科島」も、医療制度に関するあらゆる権限が行政府に集中していることが独自の進化を容易にしているのであるが、「お上信仰」という日本ガラパゴスの長い歴史を変える現象はまだ見られない。

さて、生物学上の「進化」はよく誤解されるのであるが「進歩」ではない。「進化（英：evolution）」とは狭義には『時間の経過に伴う生物集団中における遺伝子頻度の変化』であって、進歩（英：progress）という概念とはまったく別のものである。地中で生活するモグラの目が退化していることも進化の結果であり、クジラの手足が退化していることも進化の結果である。また人間に尻尾がないのも進化の結果である。（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

日本の医療も「進化」し続けているが、「進歩」しているとは限らない。「退化」もするのである。「進歩」するか、「退化」するか、生物界と決定的に違うのは「選択圧」の多くを人間自らの意思で変えられることである。

2009/03/15

みんなの歯科ネットワーク

SATO